

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道教育大学附属釧路小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒085-0805

北海道釧路市桜ヶ岡7丁目12番48号

E-mail kus-fushokyo@k.hokkyodai.ac.jp

Website http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_syo/

幼児児童生徒数 男子 191名 女子 176名 合計 367名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「豊かな心，創造性をもち，自ら学び，ねばり強い意志をもつ 健康で明るい子供」の育成を目指している。環境教育においては，感受性を豊かにし，環境や環境問題に関する見方・考え方や，よりよい環境の創造のために主体的に行動できる実践的態度を育成することを目標としている。

具体的には，釧路市阿寒湖畔で（一財）前田一步園財団が管理している森林をフィールドとして，2年生から6年生までが各教科の学習と関連付けながら，横断的・総合的な取組を行っている。

① 2年生（6，10月）

阿寒湖畔での植樹体験，きのこ探し等を通して，自然環境や事象に対する感受性や興味・関心の向上を目的として活動を行った。

② 3年生（7月）

昆虫の体のつくり，環境との関係について理解するための昆虫採集を通して，多様な生物の存在を実感し，環境に進んでかかわろうとする態度を育成することを目標として活動を行った。

③ 4年生（10月）

川の水の始まりを探す活動，湧水の観察等を通して，環境に対する問題を見だし追究する態度，自分たちの生活とのかかわりを意識し始めることを目標として活動を行った。

④ 5年生（9月）

流れる水の速さや量，水の働きと土地の変化の関係性，森林を守り育てる仕事の調査や枝打ち体験等を通して，環境保全に対する意識の向上，自然に対する畏敬の念をもつことを目標として活動を行った。

⑤ 6年生（11月）

エゾシカを視点とした生態系の理解，樹脂ネットの巻き付け体験や捕獲したエゾシカ肉の試食等を通して，環境を多面的に捉えたり，物の連鎖や循環という視点から，より主体的に環境とかかわろうとしたりする態度を養うことを目標として活動を行った。



各学年の活動の様子（左から2年生，3年生，4年生，5年生，6年生）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

その年度に実施した学年が、取組の実際、成果と課題、課題解決に向けての修正ポイント等を整理し、次学年に引き継ぐようにしている。

また、校内に取組全体の主担当者を配置し、外部機関との連絡調整を図ったり、学校全体としての取組のアウトラインを整備したりすることで、修正・改善を図りながら、組織的かつ継続的な取組が推進できるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

各学年が阿寒湖畔で実施している学習活動にかかわる内容の理解がどれだけ定着しているかを、毎年年度末に行っている学力検査の結果を基に分析している。具体的には、結果を基に阿寒湖畔での学習活動の見直し、改善を図り、より充実した活動の実践に繋がるようにしている。

また、学校評価の中では、多くの保護者より本校の教育活動の特色の一つとして大きな評価を得ることができている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

ホームページ等を活用して、全体計画や活動の様子を発信している。他の学校から、実際にどのような活動を行っているのか、どのように連絡・調整を図っているのかなどの問い合わせをいただき、対応している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

本プロジェクトは、（一財）前田一歩園財団との連携によって継続することができている。具体的には、財団が管理している森林をフィールドとして活用させていただいたり、当日の活動のガイド等として同行いただいたりしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

特になし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

○毎年継続して、同じ環境に関わっていく中で、その学年の学習に応じた自然の素晴らしさや抱えている問題に触れることができ、そのことによって、環境に対する見方や考え方を広げたり、深めたりすることができている。

○休日などを利用して自分たちが活動したフィールドに家族と足を運び、自分の活動したことを伝えたり、自分の興味を持ったことをさらに追究したりする児童の姿が見られている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

現在教科の学習として位置づけている各学年のプログラムを、次年度は「総合的な学習の時間」を中核とし、他教科等との有機的な関連を図った教科横断的なプログラムとして編成できるように、活動の評価・改善を図っている。

そのことに伴い、次年度は活動のフィールドと内容が今年度と若干異なることが予想される。